

長崎県建築鉄骨研究会 令和2年度意見交換会報告

1. 開催日時：令和2年12月3日（木） 10:10～11:50

2. 場所：長崎県庁 行政棟3階308号室

3. 参加者：別紙のとおり（資料1）

4. 意見交換会

(1) はじめに、司会進行担当の高比良秀博副会長から開会の辞と進行の方針についての説明があった。引き続き会長の挨拶があり、専門委員長から令和2年11月27日（金）に行われた令和2年度第1回専門委員会の内容について説明がなされた（資料2）。

また、会員および専門委員の異動が紹介され、それぞれ自己紹介があった（資料3-1, 3-2）。

(2) 講演

講師：藤田謙一氏（長崎総合科学大学工学部工学科建築学コース准教授・本会会員）

テーマ：「構造と防災に関する研究紹介」

大規模浮体式構造物の波に対する応答挙動、ノンダイアフラム形式の柱梁接合部の構造性能、津波からの避難におけるマクロ的な人的被害評価の3テーマについて紹介された。それぞれ興味深い内容で活発な質疑応答がなされた。

(3) 自由討議

- ・最近、ファブで作図した図面の承認が遅くなっている。設計図書の分量が以前より少ないように感じるが、図面の承認が遅いことと関連があるのかどうか。詳細について質疑を上げては決まってもいい。事情をご存知ないか。
- ・大手の事情は分からないが、自分の経験では設計者とファブの技術者が直接対話できる場があると話が早い。このため設計図書の意図をファブに伝達する方法について検討を続けている。
- ・意匠図と構造図の違いも大きな問題である。この場合何回かのやり取りが必要になることがある。
- ・意思の疎通を円滑にするためにも、設計者とファブの技術者と一緒に研修ができるようになればと希望している。
- ・同様に考える。
- ・11月27日の専門委員会ではCDの発行数を100枚とすることに決まったようであるが、理由があれば聞かせてほしい。

- ・特に理由はなく委員会で合意した数である。様子を見たい。
- ・建設コストについての議論はできないか。総合建設・設計者・ファブの3者が揃っているのであるから、それぞれの経験を持ち寄って合理性を追求すれば建物の建設コストそのものを低くすることが可能ではないか。
- ・建てる場所の特徴を考慮した設計なら安くできるなど、全体が単純かどうかでコストは変わる。3者での話し合いの場があればコストの議論の余地はある。
- ・鉄骨の場合、状況によって工賃と材料費が複雑に絡むのでトータルコストの議論は簡単ではない。

概ね以上のような議論が展開された。結論は出ていないが、次年度以降の専門委員会のテーマに繋がっていくものと思われる。

以上

(文責：修行 稔)